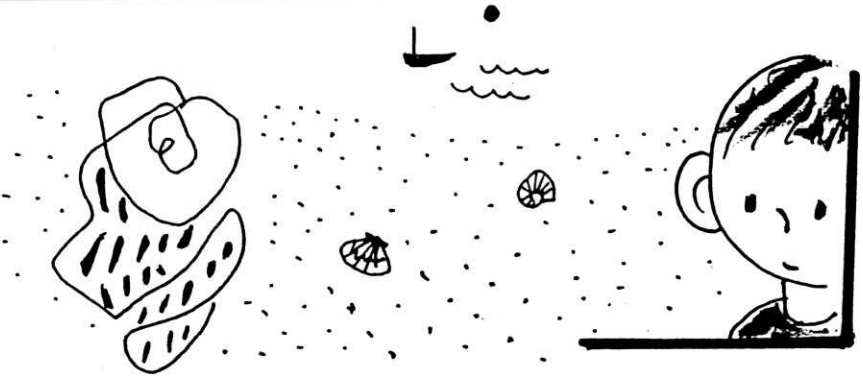




う 羽 化 が

1997年8月
第3号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宗 助 悦 子



テーマ：『心に残った本 Part. 1』

目 次

連載「EIBRK 漢点字変換システムについて」(3)	i (中央)
テーマ：「心に残った本」	1
同報通信『雑談』より	8
パソコン利用法	9
会員プロフィール	11
連載「点字から識字までの距離」(3)	15
連載マンガ「となりのシロー君」(2)	17
代表インタビュー 3	21
漢点字ってどんな字？ 2	25

テーマ『心に残った本 Part. 1』

本号も当会には、切っても切り離せない『本』をテーマにしました。誰でも、心に残った本はあることでしょう。貴方の心に残った本は何ですか？

今回は横浜市中央図書館サービスク課課長 新谷様にゲスト執筆をお願いいたしました。

マーガレット・ミッチェル「風と共に去りぬ」

横浜市中央図書館サービスク課 課長 新谷 迪子

この本を読んだのは、当時の少女達の平均的な年齢だったと思います。

牧歌的な村で育ち、高校生となり片道三〇〇四〇分かけて自転車です通学していました。

いっばしの文学少女きどりでいた私は、世界史の授業のなかで「南北戦争を理解するには『風と共に去りぬ』を読んでみるのもいいと思う」との先生の言葉で、この大作の読破に挑むことになったのです。

町に一軒の本屋で入手した本を、その頃の私の習慣で徹夜を含む二週間ほどで読みました。(出版社・出版年・翻訳者 等 今の仕事に必要な書誌事項は全く

忘れてしまいました。また本も手元にありません。) レット・バトラーやスカレット・オハラは思春期を経て、自立心が芽生えてきていた少女が、強烈にうけた感想は「大人になるとはこんなことか!」だったと記憶しています。「大人になる」ということの内容は、細いウエストの目立つ服装をし、恋愛を自己主張をし、そして勇敢で不屈の精神を持つということだったと思います。何という事はない、スカレット・オハラに当時の私は将来の理想像を見ていたのです。

先生の一言で何人もの友人がほとんど同時に読み始め、私の購入した本も級友の何人かの役にたつたと思われます。友人と読後感を語り、暗くなるまで学校の図書室にいたことを覚えていきます。

この読後私は自分の生き方をいろいろ考えはじめ「私をどうするのか」「そのプログラムは」「そのシナリオは」で、とうとう横浜まで出てきてしまいました。昭和三〇年代の少女にとってこの決断はとも勇気のいることでした。両親は田舎で娘が幸福な結婚をしてくれることを願い、その相手を密かに準備し、嫁入り道具を少しずつ買い整えて楽しみにしてくれていたものと思われます。そういう親の希いをしりぞけてしまったのです。

さて、一九九六年のオリンピック開催地がアトラン

ただったことで、私の中で四〇年ぶりに「風と共に去りぬ」が去来していました。アトランタ・オリンピックを扱う各種の図書・映像にふれる機会がありました。そういう中で、世界中に熱烈なファンをもつこの小説も黒人の間では、大きな批判や波紋がずつとあることを知り、アメリカの人種問題を考えさせる内容を含む大作であること、ただのロマンチックな恋愛小説ではないことを改めて知った次第です。

スカーレット・オハラを取り巻くアメリカ南部全体のイメージは、婦人を大切にする騎士のような男性と、チャーミングな淑女とハッピーで忠節な奴隷というもので、少女の私はこの世界に酔っていました。特にハッピーで忠節な奴隷というこの小説の描写は当時の私の心をやすらかにするものでした。「オールド・ブラック・ジョー」のうた「アングル・トムズケビン」(原作はペンギンブックスで六〇〇ページ余の長編ということです)の物語「風と共に去りぬ」のマミーやピック・サムの描写は心地よい精神的空間を作り出すのに必要なキャラクター達でした。私の精神形成はそのようにされていたのでしょうか。私はそのような生活を望んでいたのでしょうか。現時点で考えれば、それは私の「差別」であり、現実逃避だったのでしょうか。今でも黒人靈歌や黒人労働歌を聞くと先述の人々が浮かび出し、何とも複雑な気持ちになります。しかし

黒人靈歌や黒人労働歌が、奴隷解放以前に黒人奴隷達は、逃亡と自由を夢見ながら隠語で語り、隠語で歌ってきたこれらの歌には奴隷所有主にはわからない二重の意味がふくまれていたといえます。彼等のヨルダン河とは黒人を自由州からひきはなしている湿地帯のことであり、アラオの軍隊とはエジプト脱出の話ではなく主人の奴隷所有者のことでダニエルの脱出はパピロンからの脱出ではなく、追いかけて来る血に飢えた獵犬からの脱出だったのです。

「風と共に去りぬ」は「人種差別」意識を助長する内容をもつ本として評価されていると聞きました。一番大きな問題は人間はそれぞれ違っていると考える前に、同じ民族や肌の色でひとくくりにしてしまうことだと思えます。これは人間性の誤解であり、いわゆるステレオタイプを作った源はここにあるのだと思えます。

南北戦争を理解しようとして読み始めた本は私に大人のリマンズと「人種問題」を提示してくれました。もう一度読み返せばより深く理解できるかもしれませんが、私の現在に読み通す余力が残っているかどうか……。

第2号でも紹介されました、墨田区緑図書館で漢字訳の活動をしていたいております、グループうさぎの代表者、吉田様より原稿を頂戴しました。

本を読む

船橋市 吉田 和子

このところ久しく読書？ 本を読んだという想いをしていない。毎日字を読み字の中に暮らしてかなりの数の文章や本にも接しているのに、心に動きを感じる事が少なくなっている。年のせいで鈍くなったのかしら？ テレビニュースに一喜一憂しドキュメントも番組を選んで涙して見ているのでそんな筈はないと思うけれど――。

昔？ 「あなたの趣味は何ですか」と聞かれて「読書」と答えたものでした。女学校時代は世界文学全集など翻訳物に夢中で自分も主人公とともに喜び悲しみに胸踊らせ、友人の間を本は羽が生えているように飛び交い誰もがむさぼるように読んだものでした。戦時中はかくれて本を読み文章を楽しみ、手紙の書き出しによく引用していましたっけ。小説などは導入部リズムがあつたというか七五調のような流れの美しい文

章そして漢字のかもしれない出す雰囲気に行間を楽しみながら素直に本の世界に入ってゆけたような気がします。最近の本はなんだか読みづらくて、作品の世界を遠巻きにしながら入り口を探しあぐねるような、そして不協和音を感じつつ読後に疲れを覚えます。情報過多な生活環境でその取捨選択にも体力がいるように思えます。

漸く自分の時間をもてるようになった現在、点訳作業で一冊の本を数回目を通しているのに内容は把握できず部分的な記憶しか残らない。調べ物のため辞典類を始め広範囲な書物に目を通す度に学生時代にこれくらい努力していたらもつと別の世界が開けていただろうとつくづく思います。しかし、あの夢中で本を読みあさった若い頃があつたから今のこの個性を持った自分があるのでしょう。少しゆとりのある読書で心に残る一冊に巡り会いたいものです。私の残された時間に人間の本当のすばらしさを見つげるためにも――。



「ここに残った本」「明治という国家」

會員 小倉 道男

最近、私にとって痛恨事はなんと言つてもわが敬愛してやまない「司馬遼太郎」の死である。彼の畢生の著作「明治という国家」こそ私のここに残った本と言えよう。珍しくも最近落ちついて本を読む時間に恵まれて、この本をじっくり読み返すことが出来た。司馬遼太郎の文章でいいなあとと思う点は読者を前にして諄々と語りかける（ものごし）だ。その語りくちにはてらいとかおごりと言つた匂いが微塵もない。あくまで平明であり、率直である。

さてこの本の表題だが普通なら「明治という時代」とするであろうところを敢えて「明治という国家」と言いのけたところが彼の彼たる所以であろう。いま私の手元にこの本が出版された当時の朝日新聞に載つた書評があるのでそれを紹介しておこう。

『「にわかには世界の仲間に入り、まったく手探りで近代化をとげた」明治日本の「シン」を探ったドキュメント。遣米使節団に含まれていた「三人の国家設計者」小栗忠順、勝海舟、福沢諭吉、ただひとり「新国家の青写真をもっていた」坂本龍馬をはじめ、西郷隆盛、大久保利通らのスターにまじって津田出、副島種

臣の評価が高い。人間と挿話を通して時代を俯瞰する司馬ブシが快く鳴っている。』とあり また、ある論評には『「明治」は、清廉で透き通つた「公」感覚と道徳的緊張モラルをもっていた。明治国家という人類普遍的遺産をかたる、巨匠畢生の日本論であり、卓越した文明論である。』と賛辞をよせている。

この本を通読して思うことは司馬という男が如何に「明治」に惚れこんでいたか。ということ。彼は本当に「明治」が好きだった。ことがヒシヒシと迫ってくる。と言うことは彼は「明治」を演出し演技した人達をこよなく愛してやまなかつたのだ。これらの人々についてはこの本のいたるところにちりばめられているが、たとえば小栗上野介と栗本瀬兵衛の二人の友情とも言える結びつきが、徳川幕府から明治国家への絶大な遺産をもたらした。といったエピソードなど、ここでそれらを紹介する（いとま）はないが、要は司馬は巻末のことばを引用させて貰うならば「遠く蜃気楼の彼方に消えてゆく」明治という国家「を客観的に、机の上の物体をみるような気分で、語り尽くそうとしたものである。」

合掌

心に残った本

會員 木下 和久

「神々の指紋」という本が一時ベストセラーになったことがあります。既にお読みになった方もおられるでしょう。書評を見て読みたくなり、上下2巻をまとめて買いましたが、なかなか読む時間が取れなくて、しばらく本棚のすみで「積ん読」の状態でした。この間しばらく入院する機会があつて、これ幸いとばかりこの本を持って行きました。実は、その前に少し読み始めたのですが、まるで学術論文のようにやたらと引用文献が記されていて、文体もいくらか硬い感じのものです。ということ、あまり読み易い感じの本ではなかつたのです。

でも、本格的に読み始めてみたら、「ううん？」という感じで、次第にその中のめり込んで行きました。どうも、言っていることが本当らしいのです。一万年以上も前に南極大陸は温帯であつて、そこに高度な文明が発達していたらしいと。彼らは正確な世界地図を描く能力があり、彼らが描いた地図が現在まで伝えられていると。そして、エジプトのピラミッドの一番立派なものや、スフィンクス等は、彼らの一派が作ったのではないかと。何しろ、二〇〇トンもの大石をもの

すごく正確に積み上げる技術を持つており、これはその後には作られた他のピラミッドとは全然技術の程度が違ふというのですから。しかも、そのピラミッドが作られたのは、エジプト時代ではなくて、それよりも遙か数千年も遡つた時代だつたのではないかというのです。

こういう奇想天外な考え方が、一般の学者たちに簡単に認められるわけはありません。現に雑誌「ニュートン」で、有名なエジプト学者の吉村作治先生が、この説に対して真つ向から否定していました。でもその本によると、かのアインシュタイン先生もこの本の著者の考えにかなり賛成しているらしいのです。

ところで、問題はこの先にあります。南極大陸は、今でこそ南極にあつて、何千メートルもの氷で覆われていますが、一万年前には温帯にあつたといひます。ということ、その当時の南極は、今の南極大陸ではなくて、もつと別の場所だつたということです。当然北極も、今の北極ではなくて、ヨーロッパの一部だつたといひます。つまり、地軸が大幅に移動してしまつたといひます。これは、地球が剛体ではなくて、マグマの上に浮かんだ地殻の表面だけが、くると滑つて、移動したのだといひ考えです。地軸が移動したのではなくて、地球の表面だけが移動したといひます。

こんな考えは、突拍子もないもののような気がしますが、意外に本当かも知れません。何故なら、海洋底の岩石の磁化の方向を測定すると、長い地球の歴史の中で、磁極の突然の変化が何度も起こったことが広く知られています。この磁極の突然の変化の原因については、まだ定説がありません。もしかしたら、その原因はここでいう地殻の滑り移動だったのではないかと、思えてきました。

もし、それが本当だったとしたら……。この本の著者の予想によると、比較的近い将来に、その地殻の大移動が起こるかも知れないのです。そして、もしそうなら……。その先はあまりにも悲劇的な人類の滅亡が予測されるので、これ以上は考えないことにしましょう。



大人の世界の仲間入り

会員 宗助 悦子

心に残った本は、1冊や2冊では言い切れないほどある。

内容的に心に残っている本、外的な出来事に関係して心に残っている本、分類するだけでもきりが無い。

そこで、今回は初めて文庫を買った時の思い出の本を挙げようと思う。

小さい頃から本が好きで、買い出すときりが無いと思っただのか、両親からは特別な時しか本を買ってはもらえなかった。

児童書はハードカバーが主で、当時は全集物が流行っていたのか、赤い表紙の日本文学全集や白い表紙の伝記小説全集、シートン動物記など、箱入りのものなどが多く、500円から800円位だったと思う。

子供のお小遣いではなかなか買えず、お誕生日のプレゼントとお年玉を貰った時しか、買えなかったような気がする。

しかたなく、学校や市の図書館で本を借りて読んでいた。両親共に本が好きで、父は夕食後から寝るまでの間、よく文庫本を読んでいた。小さな文字でびっしり埋め尽くされている文庫本を見て大人の本というイメ

ージが強かった。

本が読みたくて読みたくて仕方がなかった私は、よく父の本を貸して欲しいとせがんだものだ。答えはいつも「おまえにはまだ早い。」の一言だった。父は、私が読むには難しい本を読んでいたのもそのように言ったのだったが、私は文庫を読むにはまだ早いと解釈してしまい、書店を覗いても文庫コーナーへは足を踏み入れたことがなかった。

ところが、何がきっかけだったか、小学校5年生の時に、一大決心をして、文庫を購入しようと思ったのだ。どきどきしながら、書店の文庫コーナーに足を踏み入れ、文庫の背表紙をじつと眺めてどの本にしようかと考えた。少ないお小遣いから、購入するのだから、薄い本を見つけては内容を見て迷い、題名で選んで値段を見て迷い……

最終的に、薄い本の中で、有島武郎の「一房の葡萄」を買うことにした。あの時の緊張感と、買った後の嬉しさは今でも忘れることが出来ない。

結局は、童話であったのだが、大人の仲間入りをしたような気分だった。

実際には、十分か二十分の間悩んだのだと思うが、そのときは、一時間も二時間も悩みに悩み抜いて選んだような気がした。

有島武郎というと、やはり「或る女」が有名であるが、

私にとっては、なんとと言っても「一房の葡萄」である。深く読むと、大人の童話なのだと思うが、当時は表面しか読みこなせてはいなかったのだと思う。

廻りが黄色く変色したその本は、今も大切に本棚にしまわれている。

これを機会にと本棚の奥からその本を手にとってみた。「一房の葡萄」に収められている八編が武郎の童話の全てであり、ほとんどが、自殺をするまでの二年間で書かれている。解説には、学齢期に達した三人の子供に精神の糧を与えたいという父性愛的願望と隣人愛の精神では解決できない社会問題の一つである。小児問題「を童話の形をとって表現したとある。

確かに、「一房の葡萄」では、学友の絵の具を盗んでしまい、大好きな先生から怒られるかわりに一房の葡萄を受け取り、自分の愚かさを反省する少年。「おぼれかけた兄弟」では、土用波でおぼれそうになった妹を自分の命が助かりたい一心で置き去りにしてしまう。兄。

子供のエゴイズムを徹底的に表現している。しかし、その中にも子供の素朴な心情が現れている。

現代の子供達は、先生は、大人達はどうかなのだろうか？

久しぶりに大人の目で読んで、考えさせられた本である。

当会では、『ラポールネット』を利用し、相互連絡、データのやりとりの他、専用の“会議室”や同報通信を行っております。会議室の“議長役”であり、会の“手配師”でもある我らが西氏が、連絡事項の同報通信の他に『雑談』と称して楽しいメールを下さいます。

そしてなんととっても楽しみなのは最後の一句。

今回は、その同報通信から転載させていただきました。

これから、機関誌「うか」にもちよくちよくお目見えすることになりそうです。

会員 西 淳策

サラリーマンを卒業して、なによりも楽になったのは朝です。目覚ましをかけるまでもなく緊張が走る、このストレスこそ老化防止に必要だったのに。一方、逆に老人性早起症により早く目が覚めます。家事も口にしなくせに、ゴミをガサガサ集めて家中の蠶躰を買うのです。そうかといえ、昼間ゴロゴロしていると、「生ゴミになるよ」とのご忠告。「違うよ、粗

大ゴミだよ」と云いかけて、価値観の差はともかく、なるほどと思ったりするのも亀の甲である、と思うのです。

もうひとつ、変わったのはテレビの見る番組です。もし、プロフィールのアンケートに「お好きなテレビ番組は？」という項目があればこう答えるでしょう。NHKの「女の大研究」！、プラス「生活ほつとモーニング」。これはご承知のように、平日朝8時35分から始まるから、お勤め中は見られなかった番組です。たいへんタメになる内容なので欠かさずとまではないきませんが、よく見ます。テーマによって見逃したりすると後まで悔しさが残るといった案配です。司会は家庭の主婦である女性とまだ独身の男性との二人のキャスター。うるさいお姉さんと、それを煙たがっている弟分とのやりとりに下町の日常的な生活感が出ています。お姉さんが彼をからかって自分の不利なことにと及ぶと、さつと話題を変えろといった調子で結構楽しく面白いのです。このほつとはHOTではなく、子供やご主人（この順は重要度による）を送り出してホットすることなんだなと妙に納得したわけです。

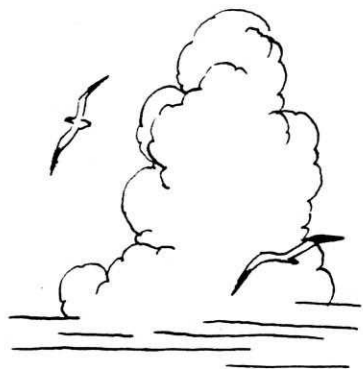
この番組で思いだしたのは、この間の放送で、O-157の原因の一つとして「蠅」がありそうだとの研究を取り上げていました。これは落とし穴というか、盲点でしたね。戦前の人間ならば最初に考えそうな筈

なのに、叡知を集めても今ごろとは。そういえば、あのころと違って昨今、蠅が少なくなりましたね。ハエ帳と言葉も今や死語になっていっているのでしょうか、物も果たして売っているのでしょうか。

この間フランス国内を旅行して気がついたのは、レストランに結構、蠅がいます。よく手で追い払いました。我々が入ったのは、当然高級な店ではないということもありましたが、それでも結構な店にです。一流の店はまさかそんなことはないと思いますが、それにしてもイメージにそぐいませんね。フランスは牧畜が盛んであるせいかも知れません。

さあ、皆さんもハエに注意して、この夏を息災でのりきりしましょう。

今回駄句抜きです。おや、蠅が手をする足をする？



パソコン利用法

単語登録について

宗助 悦子

皆さんは、ワープロを使用するとき、記号やよく出てくる熟語などの入力はどうのようにしておられますか？

羽化の会では、ルビ符に使用するアクセントマーク（ ）やキーボード上に無い括弧類、単漢字変換でしか出てこないような難しい漢字にと、ワープロ字典と首っ引きで入力している方もおられるかと思えます。そこで、単語登録の利用について少しだけ触れたいと思います。

「そんなこと、とつくにやっているわ」という方は今の内に読み飛ばして下さい。

まず、単語登録の方法ですが、一太郎をご使用の方は、**田**のキーを押して、**WR**の方は**H**補助登録↓**W**単語↓**A**登録を、**WR**の方は**H**補助↓**W**単語登録をそれぞれ選択して登録した読みを入力して登録を終了します。ヴァージョンによって若干の違いはありますので、マニュアルを見て下さい。

さて、その登録方法です。登録するときの『読み』には様々な方法があります。

個々の入力者にとって、利用しやすい読みにすることが大切です。また、登録するものも、ある程度は厳選しないと、登録した字や記号が候補の先頭にあがってきますので、変換の際に必要な字が出てこないなどということになってしまいます。

例えば、私は読みを"かつこ"として、JISコードで呼び出さないと出てこない括弧類を全て登録しています。登録の際には、括弧の開きと閉じを一つと考えて登録します。入力の際には、"かつこ"と入力してまず必要な括弧を選択し、カーソルを開きと閉じの間に移動して括弧の中の文字を入力するのです。ただ、ここで問題なのは、括弧類を18個も登録してしまったため、この文章のように"括弧"という字を出したときにこの字が19番目に来てしまうことです。

そこで、考えたのはアルファベットを使うことです。私はローマ字入力ですので、アルファベットは切り替え無しで入力できます。それを利用して記号類を" k # "という読みにしました。そうすれば、" k # "だけで変換することは他にはありませんし、" 記号 " という字を呼び出す時に何回も変換作業をしなくて済むわけです。

他に、前述のアクサングラフはルビの" R "をど

っています。(これは、会に入ったときに吉田さんに教わりました)

また、友人の名前などよく使う人名は、姓名を一つと考え、読みは姓だけにします。つまり、" むねすけ " と入力して変換すると" 宗助 悦子 " と出てくるわけです。自分のなまえは面倒なので、" む " で変換できるようなもしてあります。

" 横浜漢字点字羽化の会 " は長いので" y " です。人名だとあまり変換の際の害は無いように思います。

もう一つ登録しておきたいのは、難しいけれど頻出する単語です。

それともう一つ、当会で是非とも必要な枠の登録です。標題等を点字の枠で囲うとき、「ねうううす」とひらがなで登録して後で変換する方法、「32 ー ー」と記号で登録して後で変換する方法、「……」と直接点字で登録する方法がありますが、やりやすい方法で登録しておくのが便利です。このときの登録は単語登録では無く、短文登録を使用します。

その他に、専門用語ばかり出てくる書籍の入力では、頻出の単語を一回目は苦勞して入力し、これを数十個コピーしておくのも一つの方法です。文章の最後に沢山コピーしておいて、その字が出てくる度に、一つずつ使用しながら入力します。入力している後ろにコピーした数十個が連なっているという訳です。

以上、私の登録方法をご紹介します。他の方に聞いてみると色々工夫されているようです。

面白いと思ったのは、矢印等の記号の登録方法です。右矢印(→)は、" | やみ " (アンダーバー+矢印右の意味です) アンダーバーは" やみ "と入力して変換すると、" 闇 "などの字が出てきてしまうからだそうです。

いかがですか？ まだ登録していない方はさっそく試してみてはいかがですか？

登録方法を工夫することで、また違ったワープロの楽しみが出来るかも知れません。



氏名(愛称) 坂井 玲子 (Rara)

住所(市町村名) 港南区在住

出身地：生まれは東京蒲田。移り住んだ所は、現中国河北省秦皇島を皮切りに旧満州国の錦州。終戦後は石川県金沢市、東京に舞い戻ったのが昭和二十四年。その後北海道は北の果て留萌に数ヶ月のあとは神奈川県在住となりました。鎌倉住まい二十年の後、港南区民となって二十一年目となります。

学歴：これも住居同様転々。小学校は先年廃校になってしまった赤坂小学校に入学。その後転校に転校を重ね、卒業は旧満州のこれも今はなくなってしまった女学校です。

職歴：米駐留軍の電話交換手、彼等の生活環境が知りたくて住み込んでのハウスキーパー。子育て一段落から選んだ再度の交換手業。あちこち渡り歩きましたが、一番長く勤めたのが英国船籍の船の検査協会。ここで定年後一年、その後M重工へ派遣社員で勤めた後、毎日が日曜日となりました。

家族構成：昨年夫に先立たれ、今は間もなく4歳になる柴犬と一人一匹住まい。隣に娘一家がいて、ほとんど来ています。

漢字字って…：パソコンが使えるってことでふらふらと応募してしまい、一年が経過してしまいました。未だに何をやっているのか分からない状態です。いささか後悔も…

何か一言：学歴・職歴の項に並べすぎましたからこちらは省略。今のところ、パソコンの画像処理に挑戦中と、インターネット、パソ通でパソコンとのつきあいが続いています。

『プロフィール』に代えて

會員 西 淳策

始めに告白すると私はどうもこういうのが苦手です。第一、学歴なんてやむをえない場合の履歴書以外は書く気になれないし、職歴だって今更どうでもいいじゃないかと、なにやら反発心もたげるのです。もともと人に言うような中身でもありませんし、できれば触れたくないのが本音でしょうが……。でも、この類のことは、もともと人間にレッテルを貼るようなものになろうし、ましてやボランティア活動を貼るようなものには、一向に必要なことだろうと私には事実思えるからです。そこで編集の方には申し訳ないのですが、ご指定のアンケート項目にこだわらず、逆にこの欄をお借りして、自分事を少々ばかり思いつくまま綴らせてもらおうという算段です。

子供時代の思い出のフタを開けるとすれば、集団疎開、東京での戦災、家族疎開ともうまさにパンドラの函といったところ。その母子一家の再疎開の信州では、終戦を迎えて困窮そのものでしたが、今から想えば、これはまさに私の青春時代への入口でした。間借りした疎開先の二階の書棚にあった、徴兵されて不在だったその家のご主人の蔵書、漱石全集を始めとする

数々の日本の文学や「ノートルダム」のせむし男」や「シャーロック・ホームズ」に至る洋ものなど、本が無かつたし買うことも叶わなかった境遇で、片っ端から読むことが出来たのはまさに好運でした。でもご主人が引き揚げられて、大事にしていた本が手垢がついていたりして見るのを見て、さぞがっかりされたのではないかと、今でも胸がちよっぴり痛みます。

東京の中学に入学して間もなく焼け出され、時をおいて編入した疎開生徒が及第点をとれずに、代数を習いに学校の宿直室に先生を訪ねた夜道、街角の裸電灯にそこだけ照らされて見える激しく絶え間なく降りしきる雪の記憶。その時の切ない思いがそのままの忘れられない一面です。

しかし環境は素晴らしいものでした。遠くに望める日本アルプス、間近に迫りくる妙高、黒姫、飯綱三山の雄姿、そしてゆるやかに流れる千曲川、また思いを馳せると早春の情景がそれに重なります。多様な杏の花々が、酸っぱい香りをともなうて臉にひろがるのです。秋から冬にかけての夜は澄みきつた月が山々の頂を浮きあがらせ、まわりの林檎の樹々の影をくつきりと描き出す。この美しい自然に囲まれた風景のなかで、またとない日々を過ごすことができたのは、今にしてかけがえのないものでした。それまで都会暮らしの中学生にとつて、そしてまたなによりも空襲の悪夢から

逃れて、一夜にして出会った山河の瑞々しきは、例えようもなく感動に満ちたものでした。いまもその頃の心情と情景が絶え間ない時の流れに浄められて、いっそう新鮮に思い起こされるのです。

ちよūdōそれにかぶさるるように、戦時中にはすつかり声をひそめていた抒情的な詩、たとえば島崎藤村の「若菜集」のような詩が、戦後の灰の中から芽をふきかえし、われわれの前にかつての新しい時代の曙をひるがらせてくれました。

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき

前にさしたる花櫛の

花ある君と思ひけり

.....

その心をときめかす想像に包まれた世界のいくつが、当時の現実の記憶とともに、今でも心の底にに灼きついています。すでにもう遠いはずの明治の昔にまで遡るような、混然とした幻のような懐かしさに満たされるのです。それに合わせるように、町の図書館の棚はもう当時でも古い、一時代前の本ばかりで埋もれていました。その黴臭い匂いと、みしみしと床の音がする薄暗い館内の冷やっとしたモノクロ的な雰囲気、格

別印象に残っています。

一方、そのころラジオから流れだした可憐な「リンゴの歌」、明るくもまばゆいばかりの戦後の映画「古い上着よさようなら」の「青い山脈」、などが新しい希望に萌える世界へとみんなを誘い出したのです。それらのメロデーはそれまでの圧迫されていた、あの暗い日々から一転して、もう誰はばかることのない解放感に溢れた時代の到来のイメージに重なるのです。ときおり今でも、当時の懐かしくも、昂揚した気分を甦らせてくれます。

焼け跡がまだ目につく東京に戻ったのは、新制中学3年卒業後の春でした。

校庭にひとり花見の逆上がり



プロフィールに代えて

会員 雨宮 絢子

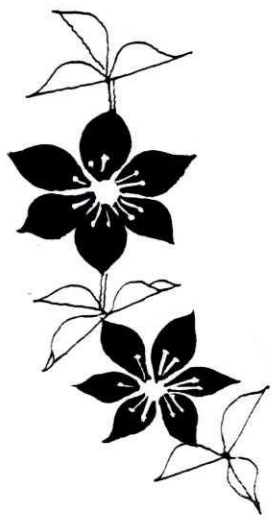
私は横浜で生まれ、鎌倉で育ち、結婚して又横浜の港南区芹が谷に住んでいます。地名のごとく昔は「芹」が群生していたそうです。現在は「子ども医療センター」や「国立横浜南病院」「芹香院」等、病院に囲まれたところです。

趣味は旅行で、日本は四国を除いてはほとんど行っていませんので今度は海外へ行ってみたいと思います。海外の一部になるでしょうか？。若い頃、ディーン・マーティンとジェリー・ルイスのコンビの映画で宇宙に行くのを見て一度行ってみたいと思っていましたら現実になるうとしています。早く生まれすぎたようで残念です。

羽化の会に入ってから一年半になろうとしています。後から入られた方は「さぞや」と思われるでしょうが、見かけ倒しですのでご用心。

講習会の時はいつも前に席を取る癖がありまして岡田さんに早く名前を覚えられたせいか会計をおおせつかるは、横浜通信のメンバー（吉田信子さん・山田さん・玉井さん）になるは（最初毎月発行でしたし、岡田さんのお宅へ行ってエヴェレストで印刷、送付）と点

字や取り決めを覚える間もなく（吉田さんが一生懸命教えて下さるのです）が頭のスポンジが堅くなっているのでもいつもご迷惑をかけています。時が過ぎました。ワープロも趣味程度に打てるくらいでしたので、いろいろな機能や（一太郎のマニュアルを床に並べて）、DOSの事も（最初、田中六のインストールがコマンド入力でしたので本を見ながら…と木下さんに教わりながら）。下期には製本の勉強をしたり、ラポールを坂井さん・門司さんのおかげで交信できるようになりましたが、メールの受信のみで他のメニューはあけていません。先日は送信の時間を短縮するための圧縮ファイルと解凍を宗助さんに教わりと皆さんにボランティアされております。これからもよろしくお願ひします。



連載 点字から識字までの距離 (三)

山内薫(墨田区立緑図書館)

先日、東京の図書館で障害者サーブिसにかかわっている職員との会合があり、元筑波大学附属盲学校の教諭長谷川貞夫氏の話の聞く機会があった。彼は日本でのテープ・ライブラリーの発足や日比谷図書館での対面朗読サーブिसの開始にかかわり、何よりも六点漢字の創始者としてその名を知られている。六点漢字は羽化の会が点訳している漢点字(八点漢字)より少し遅れて考案された、やはり漢字を点字で表す方式で、漢字の音と訓の組み合わせにより基本的には三マスで一つの漢字を表す。三マスの内一マス目と二マス目には音読みを表す符号(音符号)を書き、三マス目に訓読みの最初の文字を書く。例えば「山」ならば、「サン」という音符号の後に「や」と書いてその漢字を表す。この「サン」という音符号は、一マス目が「4、5、6」の点、二マス目が「1、5、6」の点(つまりサ)、三マス目が「3、4」の点(つまりヤ)で表す音読みの語尾に「ン」が付く場合には必ず一マス目が「4、5、6」になるといふような規則性がある。勿論共通の音を持つ漢字がたくさんあるので、例えば「コウ」という音読みに関しては、音符号が四種類も

あり、「硬」という字は、「4、5、6」に「2、3、4」に「1、6」と書き、語尾が「ン」の記号と重複している。また訓読みのない字については、訓の替わりに部首を表す部首記号を書くことになっている。

漢点字版『漢字源』製作の中心になった村田忠禧氏は「すでに漢字の知識を持っている人が中途失明などに陥った場合には役に立つが、1漢字を表現するのに最低3升が必要とされること、音訓という発音に頼るだけなので漢字の成り立ちを知ることができず、学習に苦勞が伴う。そのうえ漢字符号として前置する符号には、日本点字表記では外字付、半濁音、特殊音(4、6)などの前置符号とおなじものもあり、『漢字としての独立性が小さく読みにくいばかりでなく、日本点字も混乱させ』る結果(斎藤一九八八、一二七)になっている。」と述べておられる。(1)

長谷川氏の話は対面朗読を中心とした「公共図書館におけるこれからの視覚障害者サーブिस」というものだったが、講演の後の質問の時に、「緑図書館では八点の漢点字によるサーブिसを実施しているが、漢点字についてどう思うか」と質問してみた。それに対して長谷川氏は「六点漢字に対して随分多くの批判が寄せられた。もともと六点漢字を考案したのは視覚障害者のワープロ入力や自動点訳のためのものであった。六点漢字は形声という漢字の原則にあったものである。

しかしカナ漢字変換が進歩し、しかも音声で個々の漢字の詳細読みが可能になった現在、六点漢字は入力のためのものと考えている。八点漢字のように複雑な漢字を二マスの点で表すのは不可能であり、非常な学習負担となる。今では漢字を無理に覚えなくても、テキストファイルを音声で読めばよくなったので6点漢字がなくても間に合うようになった。ただ現在職能開発センターで六点漢字を使用しているが、これは一文字いくらという単位で入力しなければならぬという能力が勝負の世界なので、音声でいちいち確認などしてられないためである。現在も六点漢字を作っており、六万字を目指している。」と回答して下さった。つまり六点漢字は当初から「読むための漢字」ではなく、もっぱら書くための記号であったことが、氏の話で明らかになった。つまり漢字を表す点字といっても六点漢字と漢点字は同列に比較することできない、別種のものと言わねばならないのではないか。

ところで一九八九年に全国の盲学校を対象に行われた調査(2)(依頼数、六九校、回答数五八校)では、児童生徒に対して六点漢字を指導しているのが二一校、八点漢字を指導しているのが一一校、両方が六校で、検討中五校、どちらもしていないのが一五校となっている。指導を受けている生徒数は六点が小学部で六校一一名、中学部で六校一五名、高等部で一八校一二六

名の合計延べ三〇校一五二名、八点が小学部三校一〇名、中学部二校四名、高等部九校三三名の合計延べ一四校四七名、両方を小・中・高いずれかの二学部で指導しているのが六校二五名となっている。指導を受けている学年は六点は小学部五年からが最も早く、八点では小学部の二年から指導しているところがある。しかし教科のなかで指導しているのは僅かに五校のみでそれも週一時間しかない。その他は養護訓練の時間やクラブの時間、放課後のサークルなどで大半が週一時間となっている。六点を指導して良かった点には、「ワープロの熟達に大きな効果があった、晴眼者と文通できて生活領域が広がった、日常会話のなかに漢字の話題がでてくるようになった」などがあり、八点では「漢字の意味や字形が理解できる、晴眼者から情報が入り判断できる」などが挙がっており、問題点のなかで、多くの学校が学習教材と教える時間の圧倒的な不足と小学校からの一貫した学習の必要性を述べている。

(1) 村田忠禧「点字は『かな』だけでよいのか―漢点字についての簡単な紹介―」

(2) 「盲学校における【六点漢字・漢点字の指導状況】アンケート集計」実施期日一九八九年九月、実施、沖縄県立沖縄盲学校

となりのシロ一君 (2)



漢字は単語

おねえさん 今日は何の話？

かんてんじのはなしをしてくれるの？

この前はカタカナを覚えて漢字の形と共通なところを考えたのよね

今日はね、漢点字の話の前にもう少し漢字の話をしたいの

え！かんじのこと？

じゃを おぼえるだけでわいけくないの？

そうそう わたしもそうしたけど覚えた方が早いんじゃない？

SIRO Miki

そういうのもあるけどもう3年生なんだから漢字ってどんな字か知っておいた方が後になっていいと思うのね

ミキちゃん 漢字ってどんな字？

そして、かなってどんな字？

知っていること言ってみて？

え？いきなりこっちに來るの？

…うんと、漢字はね

ごちゃごちゃしているの！

まあそうね！

それにね 漢字は四角いの！

そうそう いいところに気がついたわ！

そう？

カタカナは かくかくして 簡単なの

ひらがなはね ぐにやぐにや していて 優しいの

うん カタカナも かんじも かくかくしてね

そうそう、この前は そのところを 勉強したのよね

そうだ カタカナは かんじの いちぶが どりつして できたんだ

うか 6月

SIRO Miki

ミキちゃん
もう少し言ってみて？

ええっと
漢字は…

一つの漢字に
色々な読み方があるの
音とか訓とかもあるし
音も訓も一つっきりじゃあ
なくて幾つもあるのがあるの

そう
よくおぼえて
いるわね！

かなはね
カタカナもひらがなも
どちらも一つの
読み方しかないの

そうね、他にある？

うーん、他には…

よく字を見てご覧なさい
ほら、漢字は、一つの文字でも
それを幾つかに分けられる
ものもあるでしょう！

花 社
浜 神

ああ、そうだ
へんとかつくりとか
そうだそうだ
かんむりとか
あしとか

そうなの！
カタカナはその一部分を
使ってきたのね

さあ
ここまでくると
ちよっとジャンプ
しようか



ええとねえ
漢字とかなのちがいはね
漢字の読み方には音や訓の
ように色々な読み方があるの
それに対して
かなには
一つの文字に
一つの読み方
しかないの

そしてね漢字はね
一つでも、一つの意味を
持った『単語』なの

え？ 単語五郎？



そうよ
本当はね
漢字とかなの
違いはね
この『単語』っていう
ところだけなのよ

じゃあね
漢字ってどこから
来たのかしら？

ちゅーごく

そうね
昔、中国から日本へ
文字を持って来たのね
もともと中国語では

漢字は『単語』
だったから
それで日本語を
書き表わそうと
すると色々な
読み方をしなけれ
ばならなかったの

中国では
文字の持つ
意味は限られて
いたのだけど
日本に来ると
日本語にピタツと合う
ことは少なかったのね



漢字って
英語やフランス語
みたいな
外国語なの？

Hello
Sum
cat
la
Bon
jou

そう考えた方が
いいかもね

『たんご』って
かんじ ぜんぶが
たんごなの？

そうよ、もともとは
全部一つ一つの
漢字がそれぞれ
『単語』だったの
たとえばね
訓読みでは
『木』や『目』は
一つの音だけで
一つの単語でしょう



『山』は二つの音
『車』は三つの音
『湖』は四つの音
の単語ね
音の数に関係なく
漢字は一文字で
一つの単語なの

それに対してかなはね
一文字は一つの音だけを
表していて、それだけでは
『単語』にはならないの

あー
かな
か
か

かなは
前後のつながりで
はじめてその役割が
決まるものなのね



代表インタビュー ③

本号も3回目のインタビューをお届けします。
復習をしながらお話を進めて行きたいと思います。

編集部 岡田さんが本会を設立なさる時、その目的とされたのは、漢点字の書籍を製作して、必要とされる方に提供したいということでしょうか？

岡田 そのとおりです。

編 現在、漢点字の資料を手に入れるには、どのようにすればよいのですか？

岡 大阪にございます日本漢点字協会から発行されているものが少しありますが、それ以外は、将来的にボランティアの皆さまに作っていただかなければなりません。

編 漢点字協会のお仕事では、充分ではないのですか？

岡 漢点字協会もボランティアの皆さんが頑張っておられるのです。しかし、規模としては大阪という地域を越えるものではありませんので、これからのボランティア活動として取り組んでいただくことを考えれば、従来の点訳活動や音訳活動に見られるように、全国の各地域でそのような活動が行なわれる必要があるでしょうし、これから出

て来るニーズに応えて行くには、そのような方向付けが必要だと思えます。

編 全国的には、漢点字訳を目的とした点訳ボランティアの活動は、盛んなのですか？

岡 熱心に取り組んで下さっておられる方もございます。しかし、その数は極めて少数ですし、相互に連絡を取り合うということも、あまり行なわれておりません。

編 本会の活動も、そのようなボランティア活動の中に位置付けてお考えですか？

岡 そうです。できれば各地で漢点字訳のボランティア活動が行なわれて、バラエティに富んだ漢点字書が世に送り出されることが最も望ましいと思います。

編 本会の活動の目的として、漢点字の本を製作して、一般社会に、漢点字への認識を求めるといことがありますが、もう少し説明いただけませんか？

岡 つまり、一般には視覚障害者が文字を持つ場合、『点字』という触読文字があることは知られています。しかし、先ず視覚障害者には触読用の文字しか『文字』と呼べるものはないことと、その触読文字である従来の『点字』には、『漢字』の体系が存在しないということとは知られておりません。知られていないと申しますと、

岡 視覚障害者ですから、「見る」ことはできないのです。ですから、一般の文字はつかうことができません。視覚を要しない文字、他の感覚器官を使って読む文字、それが『点字』という触読文字であつて、他には『文字』と呼べるものはないという事です。そして更に、この『点字』には『漢字』がないということが、思ひの外知られておりません。

その理由を、どのようにお考えですか？

岡 編 これまでには、視覚障害者の文字の世界と、一般の文字の世界の間に距離があり過ぎたのだと思ひます。お互いにその世界を覗くこともままならぬほどの距離があつたのだと思ひます。文字の世界がそのようですので、人間関係にもそれは反映してゐるに違ひありませんし、互いに協同して、一つの仕事を遂行するということも大変困難であつたに違ひないと思ひます。

距離があつたと言ひますか？

岡 編 これは余り説明されてゐないことですが、視覚障害者に『文字』がもたらされたのは、それほど古いことではありません。ルイ・ブライユがフランスで点字を考案したのが一八二九年です。日本では一八九〇年（明治二三年）、石川倉次先生が翻案なさいましたものが公認されてゐます。せいぜ

い一〇〇年です。文字の歴史からすれば、ほんの僅かしか経つておりません。

岡 編 つまり、点字の文化はまだ熟してゐないということですか？
そのように言つてよいものかどうかは分かりませんが、ただここで言えることは、日本語の世界では、文章をもつた視覚障害者は、残念ながらまだ現われてゐないということです。誤解を恐れずに言へば、ものを読むことを書くことに結びつけた視覚障害者は、この日本にはまだ存在しておりません。文字がもたらされて百年、文字の世界に親しむには短いのもかもしれません。その意味から、「点字の文化」という言葉を使つてよいものかどうか、問うて行かなければならないと思ひます。

岡 編 欧米の事情は如何ですか？「読む」ことを「書く」ことに結び付けてゐる視覚障害者の人はおられますか？

岡 編 私は、事情に暗いのでよく分かりません。しかし、その可能性は日本のそれとは比較にならないほど大きいと思ひますし、恐らく沢山の人が活躍しておられるものと思ひます。

岡 編 漢字は使わなくて済みますし、書くには以前からタイプライターがありますからね。

岡 編 そうです。読書したり勉強したりする環境は、ずっとよいのでしょうか。しかし、私たちはこの日本に生まれました。そして、日本語に育まれてこれ

まで来ました。

編 Native Languageとしての日本語を獲得するにも、触読文字の『漢字』が必要、ということですか？

岡 そのとおりです。日本の言語文化は、文字のそれとしては、記紀・万葉まで遡れます。視覚障害者にとっても、そのような資料が触読文字として提供されさえすれば、勉強も、研究も、鑑賞もできるわけです。現在ははまだそれができないのですが…。

編 そのような環境作りが、一般の文字の世界と、視覚障害者の文字の世界を近付けることにつながるということですか？

岡 直ぐに実現できるものではありません。が、私たち視覚障害者も、一般の皆さんと同じように、記紀・万葉まで遡って日本の文化と対面することができれば、自らの可能性も○ではないことを示すことができるのではと思っています。勿論それは、古典に留まりません。あらゆる分野、あらゆる領域に広がるのだと思います。

編 本会の活動の目的の一つに、基本的に不可欠な資料の製作とということがありますが、それは今言われたことですか？

岡 鑑賞したり、研究したりする時に、必須の資料があると思います。個別に必要なものもあります。

編 どちらも必要ではありませんが、ここで取り上げたのは、誰にとっても必要な資料というものです。

編 そのような考え方は本会が始めてですか？

岡 そうではないと思います。考え方とすれば、そのような所から始められた活動も沢山あります。しかし、直面するニーズに応えようとすると、そのような仕事は後回しにされるのが現状のように思われます。

編 漢点字でそのような資料作りに取りかかろうとしますと、実現性はあるのでしょうか？

岡 これも考え方だと思います。漢点字の使用者はまだ少数です。従って提出されるニーズも多くはありません。このような環境を逆手に取るという考え方もあるのではと思っっているのですが…。

編 つまり、ニーズが少ない内に、誰もが必要な資料を作っておこう、というのですか？

岡 そうです。そういう考え方も検討課題として取り上げていただければと思っております。

編 現状ではニーズが少ないとおっしゃっておられますか？

岡 ニーズと申しますのは、少ないか多すぎるか、ちよいどいいということがありません。なくても困りますし、あっても対応に苦慮する、どちらも大変です。が、ニーズの掘り起こしには力を尽くさなければなりません。

編 さて、本号の寄稿に、六点漢字の創始者の長谷川貞夫先生のお話が取り上げられておりましたが、どのように感じにな

りましたか？

私の感想は、山内氏の書かれておられますことと基本的には異なりません。長谷川先生のおっしゃっておられることと、私の考え方との間には重要な相違点が幾つかあるようです。最も大きな違いは、やはり『文字』をどのように考えるか？というところだと思います。

編

ここの所の視覚障害者に関連する報道を見ておきますと、その辺りがよく分からなくなつて参ります。つまり、私たち晴眼者は、日常的に墨字の“文字”を使っております。当然として使っております。が、視覚障害者関連の報道では、録音機器の発達によつてとか、コンピュータの発する音声によつてとか、新たに開発された音声機器が、“文字”とは違う、あたかも“文字”に代わる、“文字”と同様の表現や伝達ができる方法であるとか伝えられているように思われるのです。この辺りが、先ほどのお話の“距離”になるのでしょうか？結局、一般の方々は、「本人がそう言っているのだからそうなんだろう」といった捉え方で対処しておられるのではないのでしょうか。実際、音声を耳で聞くのと、目で文字を読むのとでは、全く質の異なる行為なので、一般には同列に扱われることはありません。が、敢えて視覚障害者の世界でのそんな部分には触れようとしなのが現状なのでしょう。

編

つまり、一般から見ると、文字を読まなくとも、読んでいるというのだからそれでいいのじゃないか、と言っているんだと言つてですか？

岡

残念ながらそういうのでしょうか。

編

盲学校での国語の教育は、どのようになっていくのですか？もう三〇年以上も前のことですから、ほとんど忘れております。が、少なくとも中学教育以降は、何も学んだ記憶がないのです。

岡

編

皆さんそうなのですか？

岡

どうでしょう、ただ漢字を使わないで、どんな風に教えることができるのでしょうか？生徒の側としても、何を受けとめればよいのか、今となってみれば、想像を超えていますね。

編

それこそ“距離”があり過ぎますよ。

岡

六点漢字の意義については特に申し上げたいことはありません。ただ、漢点字に対して、「複雑な漢字を、限られた点字の符号にするのは不可能」であるとか、「学習負担が重過ぎる」とかおっしゃっておられるのは、寂しい限りです。もし、学習負担の重さを論じるなら、一般の漢字にもその議論を当てはめなければならぬのではないのでしょうか。

編

ありがとうございました。

(23)	竹	竹冠、	竿	笑
(24)	土	土偏、	坂	
(25)	手	手偏、	扱	操
(26)	戸	戸冠、	房	所
(27)	人	第1人偏、	休	信
(28)	仁	第2人偏、	僧	佳
(29)	水	第1さんずい、	河	法
(30)	氷	第2さんずい・にずい、	次	浄
(31)	力	力、	加	功
(32)	示	示偏、	神	社
(33)	私	のぎ偏、	秋	
(34)	走	そうによろ、	起	越
(35)	進	しんによろ、	道	違
(36)	火	火偏、	煉	
(37)	女	女偏、	好	要
(38)	玉	玉偏、	宝	
(39)	方	方偏、	逢	芳
(40)	石	石偏、	研	確
(41)	耳	耳偏、	職	聖
(42)	車	車偏、	軽	輪
(43)	目	目偏、	眼	看
(44)	門	門構、	閑	関
(45)	病	やまいだれ、	痛	疲
(46)	行	行人偏・行構、	征	径
(47)	店	まだれ・がんだれ、	度	庄
(48)	月	月偏、	朋	期
(49)	肉	肉月、	胃	肺
(50)	分	八頭、	会	合
(51)	日	日偏、	時	景
(52)	性	立心偏、	情	悔
(53)	心	下心、	思	恋
(54)	口	口偏、	味	
(55)	囧	くにごまえ、	国	園
(56)	十	じゅう、	辻	針
(57)	止	とめ偏、	正	歩

以上、文字符号6点の組み合わせ63通りの内、1点だけの6つを除いた57個の文字が1マス漢字としてあります。そして、ご覧の通り、それぞれに部首として用いられて、漢字の構成要素として重要な働きを担っております。

漢点字ってどんな字？ 2

前号では、漢点字の基本的な構造についてご紹介しました。漢点字は1マス8つの点で表わされていて、漢字の部首を点の符号にしたものであることをお話ししました。今回はその中の「1マス漢字」と呼ばれる漢点字を総てご紹介し

ます。漢点字は、〈☰☷〉、〈☰☷☷〉、〈☰☷☷☷〉と、1マス、2マス、3マスの3通りのマスの組み合わせがあります。その内、通常用いられている漢字（常用漢字）は、ほとんど2マスにまとめられています。しかし、数は少ないのですが、最も基本的な漢字として、1マスの漢点字があります。以下にその漢字と漢点字符号、またそれが部首として用いられている漢字と漢点字符号を表形式でご紹介しましょう。

なお、点字の符号には限りがありますので、幾つかの工夫がなされています。その一つに、使用頻度の多い部首が2つ用意されていることがあります。また、一つの点字符号を幾つかに使い分ける場合もあります。前者の例を挙げますと、〈☰☷☷〉、☷☷☷（糸偏） 〈☷☷☷〉、☷☷☷（ウ冠） 〈☷☷☷〉、☷☷☷（言偏） 〈☷☷☷〉、☷☷☷（人偏） 〈☷☷☷〉、☷☷☷（さんずい） などです。

- | | | | |
|-------------|-----------|------------|-----------|
| (1) 糸 ☷☷☷、 | 第1糸偏、 | 縮 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 絵 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (2) 系 ☷☷☷、 | 第2糸偏、 | 紋 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 縞 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (3) 比、比較文字、 | | 優 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 良 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (5) 家 ☷☷☷、 | ウ冠、 | 完 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 究 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (6) 宿 ☷☷☷、 | ウ冠・ワ冠、 | 寛 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 冗 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (7) 学 ☷☷☷、 | なべ統・つゑ冠、 | 愛 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 交 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (8) 言 ☷☷☷、 | 第1言偏、 | 説 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 誓 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (9) 語 ☷☷☷、 | 第2言偏、 | 詠 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 証 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (10) 頁 ☷☷☷、 | おおがい、 | 夏 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 頂 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (11) 貝 ☷☷☷、 | かいへん、 | 財 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 貯 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (12) 金 ☷☷☷、 | 金偏、 | 銀 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 鉄 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (13) 木 ☷☷☷、 | 木偏、 | 森 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 横 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (14) 草 ☷☷☷、 | 草冠、 | 葉 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 花 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (15) 犬 ☷☷☷、 | 獣偏、 | 獸 ☷☷☷ ☷☷☷、 | |
| (16) 子 ☷☷☷、 | こへん、 | 孔 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 孫 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (17) 都 ☷☷☷、 | おおと・こごと偏、 | 郡 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 降 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (18) 巾 ☷☷☷、 | 巾偏、 | 希 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 師 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (19) 発 ☷☷☷、 | はつがしら、 | 登 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 癸 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (20) 食 ☷☷☷、 | 食偏、 | 飾 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 館 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (21) 馬 ☷☷☷、 | 馬偏、 | 駅 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 駿 ☷☷☷ ☷☷☷ |
| (22) 田 ☷☷☷、 | たづくり、 | 男 ☷☷☷ ☷☷☷、 | 町 ☷☷☷ ☷☷☷ |

もち古りし夫婦の箸や冷奴 (ヒヤヤッコ)

久保田万太郎

つい私は好きな俳句というと万太郎の句を挙げたくなってしまふ。この句の場合は特に説明の要はあるまい。夏の宵、茹だるような昼間の熱気は去って、年老いた老夫婦が向かい合って冷奴をつっている。成人した子供達は遠い都会に住んで…などといったドラマの一シーンも賑に。(朔)

晩年の月日聳える青簾 (アオスダレ)

桂信子

若い頃は気にしなかったのに晩年になって急にあれもこれもとやることが多くなって、目の前には、片づけても片づけても仕事が山積みされている。晩年の月日は、決して平坦な道ではなく、立ちほだかるように聳えてみえる。高齢化社会に対しての作者の感慨であり頂門の一針であろうか。(朔)

編集後記

第3号は、横浜市中央図書館サー

ビス課課長 新谷迪子氏にゲスト執筆をしていただきましたこと、お忙しい中、快くお引き受けいただきましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

また、横浜市中央図書館のお働きで、機関誌「うか」を横浜市各区にある図書館の資料として受け入れていただけることになりました。さらに、前号でのご報告いたしました横浜市社会福祉協議会ボランティアセンターに、漢字専用プリンターの設置も終わり、今後「うか」による変換やプリンター操作の勉強会を同センターで開催し、順次利用していきたいと思っております。

多くの皆様からの暖かいご支援のもと、頑張つていきたいと思っております。これからもよろしくお願ひいたします。

八月六日(水)午後八時〜九時 テレビ東京「追跡! テレビの主役」に当会のごことが放映されます。ご覧頂ければ幸いです。

次回の発行は十月十五日、テーマは「心に残つた本 Part.2」です。ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

TEL・FAX 045(261)1723

宗助悦子

前回はシステムの中で利用されているMS-DOSのコマンドのことや、外字で点字を直接入力する場合の注意と、各種のファンクションキーの使い方などについて説明しました。今回は、前回説明してなかったバックアップについてと、入力・変換に関わる一般的事項、変換後の校正について説明します。

1. ファイルのバックアップ

変換後に画面で編集をする場合、特に変換の際のファイルがフロッピードライブにある場合は、時として作業中にエラーが起こってファイルがおかしくなることがあります。このようなとき、編集を始める前にf.6キーを押して「バックアップ」をしておく、テキストファイルと変換ファイルすべてが、あらかじめ指定してあるバックアップ用のディレクトリに自動的にコピーされます。このバックアップ用のディレクトリ(パス)は、オプションで指定します。例えば、B:¥BAKをバックアップパスとして指定しておく(このパスは、あらかじめ作っておかなければなりません。例えば、BドライブでMS-DOSのプロンプトから「MD ¥BAK リターン」とすれば B:¥BAK というパスが出来ます。)、変換した結果はテキストファイルを含めてすべてB:¥BAKにコピーされます。

2. 入力・変換に関わる一般的事項

漢点字変換に使われるテキストファイルは、自動的に漢点字に変換されるとはいつても、どういう規則で変換されるかを知っていて、変換された結果が漢点字の規則に当てはまるようにしなければなりません。その参考になるようないくつかの変換時の規則を紹介します。

(1)同じ記号が連続する場合は、その記号が単独で使用されたときに自動的に挿入されるスペースが除去されます。

例	…	→	⠠⠠⠠⠠
	……	→	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
	??	→	⠠⠠
	!!	→	⠠⠠

(2)矢印の柄を延ばしたいときはコロンを並べるとうまく行きます。

例 : : : → → ⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆
 ← : : : → ⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆

(3)ダブルコーテーションは、外国語引用符としてのみ用います。原文でダブルコーテーションで囲まれた単語等は、別のカッコ類(例えば“ ”、シングルクォーテーションなど)に変えます。外国語引用符の中では、外字符はつきません。

(4)1 2 : 3 0のように、数字の間にある「:」は、その後にスペースを置かず、また続く数字の頭に数符をつけません。

(5)ワープロには、㌠、㌡、㌢など、単位名をコンパクトにまとめた記号が使われていますが、これらはすべてもとのカタカナ(メートル、ヘクタール、カロリーなど)あるいは、通常使われている英小文字の単位記号(例えばm、h a、c a lなど)を全角で入力して下さい。

(6)「一九九六年」等、漢数字が複数個並ぶ場合は、漢数符を最初に1コだけつけ、最後の点字に7の点をつけます。そうしたくない時(例えば「二三人」、「七五三のお祝い」等)は、各漢数字の頭にルビ符の「`」をつけます。

例 二三人 → `二`三人(⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆)
 七五三のお祝い → `七`五`三(⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆)のお祝い
 2 3人を意味する「二三人」は ⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆
 7 5 3人を意味する「七五三人」は ⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆

このルビ符は、算用数字につけた場合は、そこに数符をつけることを意味し、一連の数字をわかりやすく区別するように使えます。これは、例えば電話番号をハイフンなしでコンパクトに表現したいときなどに使います。

例 0 3 - 2 5 6 1 - 4 5 6 7 (⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆)
 → 0 3 ` 2 5 6 1 ` 4 5 6 7 (⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆)

(7)下がり数字(例えば7の場合、⑆⑆⑆⑆ → ⑆⑆⑆⑆)を表したいときは、数字を半角にし、その頭に半角の@をつけます。数字が複数個並ぶ場合でも、その1コ1コの頭に@をつけます。

(例 @7@8@9 → ⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆⑆)

これを利用すると、年月日を一連の連続した数字で表し、月の部分だけを下がり数字にして、コンパクトな点字表現を可能にします。

例えば、1996-8-15を1996@815(☺☺☺☺☺☺☺☺☺☺)と表すことができます。

(8)上記の下がり数字を特殊なページ番号(例えば目次の部分だけ下がり数字のページ番号で表し、本文は1から始まる普通のページ番号にする)として使いたいときは、以下のようにします。

変換後のファイルのページ構成：

表紙 1 ページ分、目次 3 ページ分、本文 50 ページ分の場合

印刷開始ページ = 1

終了ページ = 999 (全部印刷の対象範囲になる)

開始主ページNa = -3 (最初の4 ページはページNaの対象外)

開始副ページNa = 0 (最初のページ(表紙)にはページをつけない)

この場合、目次の3 ページ分にもページNaをつけたくない場合は、開始副ページNaを-3にします。

(9)ページ行に小見出しなどを入れたい場合は、f.6でページ行の文字入力モードになります(全角文字モードにするために、CTRL+XFER を押して下さい)。

これは、最終的に編集校正作業が終わった段階で、各ページ毎の内容を確認し、どのページにどの小見出しをつけるかを決めて、入力します。小見出しは、実際のファイルのページに対して割り付けられます。同じ内容を続けて入力する場合には、各行で入力を省略すると前行のデータがそのまま入力されます。

また、このページ行には原文のページNaを入れることもできます。ページ行編集の時、各ページに相当する原文ページを入力する場所がありますので、ここで入力すると、印刷時にページ行の左端にこれが表示されます。

3. 変換後の校正

点字印刷した場合のレイアウトを確認するには、画面で見れば分かるようになっていますが、ページの途中で改ページするときなど、注意しないと思いがけず空白部分が大きくなったりすることがあります。変換されたファイルを一太郎文書に変換して、墨字プリンターで印刷すると、レイアウトのチェックには好都合です。

表題部分だけがページの最下行に来て、レイアウト上好ましくない場合などは、表題の前に改行マークを入れたいくなります。そのほかにも、小さなミスタイプなどは、変換した後その場で変更したいことがあります。そのような場合に、以下に述べる校正が可能ですが、大幅な文書の変更は、f.3でエディターを起動して、テキストファイルそのものを直接変更し、再変換するようにして下さい。

(1)スペースを挿入するには **CTRL+B**を、改行マークを挿入するには **CTRL+R** を、改ページマークを挿入するには **CTRL+P** を押します。また、余分なスペースや文字を削除するときは **DEL** を押します。改行マークを削除すると、次の行と一体化します。何も表示されていない行を削除するには、一度改行マークを挿入して、それを削除して下さい。

ここで挿入されたスペースは、もとからあるスペースと区別するために、墨字行に ***B** が入ります。通常、変換の際は改行後の最初の行以外の行では、行頭のスペースを1つ自動的に削除していますが、ここで挿入されたスペースは、自動的に削除されません。しかし、行頭にこうして挿入されたスペースがあっても、そのすぐ前の行の行末に改行マークがなく、行末処理のために生じたスペースがあると、再変換したときに、行頭に挿入されたスペースの一部がその前の行の行末に入って、行頭のスペースの数が変わってしまいます。

この行末のスペースは、画面では見えませんが、半角のスペースになっています。もし、最初からのスペースがあった場合は、全角のスペースが入り、その場合はカーソルをその位置に持っていけばわかります。この全角スペースは、再変換によってなくなりません。行頭にスペースを入れて行頭の位置を調節するようなどきなど、このような不都合を防ぐために、すぐ前の行末を見て、ここに本当の行末までに半角のスペースが入っているときは、この行末に本来の行末の位置まで **CTRL+B** でスペースを挿入して下さい。

(2)通常の語句を挿入するには、f.1 を押して挿入モードにし、全角文字の入力には **CTRL+XFER** を押して漢字変換のモードにしてから入力します。また、直接点字を入力するには、無変換入力(半角入力)の状態では **1~F** の16進数を2個1組で入力します(大文字でも小文字でもかまいません)。

(3)変換後の校正を施した場合、そのまま終了にしても、再変換をしなければ問題はありませぬ。しかし、通常は再変換の可能性がありますので、是非 f.4 のテキスト・セーブを実行しておいて下さい。